

編集委員が 行く

病院や福祉施設のグループ経営の メリットを生かした障害者雇用

医療法人 ^{あさか}安積保養園 あさかホスピタル (福島県・郡山市)

一般社団法人アブローズ 武田 牧子

● 特集 ●
精神障害者雇用入門



取材先データ 医療法人 ^{あさか}安積保養園 あさかホスピタル

〒 963-0198 福島県郡山市安積町笹川字経坦 45
TEL 024-945-1701 FAX 024-945-1735

NPO法人 アイ・キャン

〒 963-0107 福島県郡山市安積 4-3-1
TEL 024-945-1100 FAX 024-945-1129

有限会社アサカサービスセンター

〒 963-0198 福島県郡山市安積町笹川字経坦 45
TEL 024-945-2713 FAX 024-945-2713

パール・イルチェントロ

〒 963-8024 福島県郡山市朝日 3-5-16 イルチェントロあさかビル 1F
TEL 024-927-5685

編集委員から



病院を中心に、福祉施設を複数経営する「あさかホスピタルグループ」を訪ねた。複数の施設を経営することで、新たな雇用を創出し、就業者にとってもキャリアアップができる環境が整っている。そこには、ライフスタイルを見直し、いきいきと楽しそうに働くみなさんの姿があった。

(写真) 小山博孝

Keyword : 精神障害、就労継続支援 A 型事業所、医療・福祉業、サービス業、飲食・宿泊業、職務創出、勤務時間の配慮、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター

POINT

- ① 病院を中心に複数の施設を運営することで、多様な業務を切り出し、キャリアアップにつなげる
- ② ピアサポーターとして働き、人の役に立つことを実感するなかで、自信を取り戻す
- ③ 無理をさせない勤務時間で、ライフスタイルを見直す



福島県・郡山市にある「あさかホスピタル」

「あさかホスピタルグループ」は、医療福祉にかかわる5つの法人を福島県郡山市、本宮市、三春町の3市町で運営している。あさかホスピタルを中心とする医療法人安積保養園、社会福祉法人の安積愛育園と安積福祉会、NPO法人アイ・キャン、そしてこの4つの法人の給食や清掃、売店などを一手になう有限会社アサカサービスセンターがあり、医療福祉サービスを総合的に提供するグループである。

今回はあさかホスピタルのほか、介護つき有料老人ホームと、NPO法人アイ・キャンが運営する2つの事業所の合計4カ所を取材した。

あさかホスピタルを訪ねて

福島県郡山駅で新幹線を下車し、車に乗って約10分であさかホスピタルに到着した。吹き抜けの明るい玄関ロビーがあり、医療法人の環境整備係チーフ今泉有加里さんが出迎えてくださった。今泉さんは、障害者雇用マネジメントを4年あまり受け持つと同時に、グループの障害者の職場定着をふくめた職場安全衛生にも心を配ってきた。雇用された方々にとって、頼もしい存在であることがうかがえた。

あさかホスピタルグループ全体の従業員は、2016（平成28）年2月1日現在1041人で、一般就労をしている人が19人、就労支援継続A型事業所の人が14人となっている。



病院の法人本部・環境整備係の今泉有加里チーフ

障害者数のうち、環境整備係で働く精神障害者雇用数は、病院直接雇用7人、アサカサービスセンター（あさかホスピタル、老人保健施設 特別養護老人ホーム、有料老人ホームの4カ所の清掃を請け負っている）4人の、計11人が清掃業務に励んでいる。

11人の勤務時間は6時間から7・5時間で、全員社会保険などに加入。一人ひとりの勤務状況を見て、徐々に勤務日数や時間を増やしている。給与は時給制で、勤務直後は福島県の最低賃金の705円からスタート。定期昇給時期には、仕事の評価を得て時給は少しずつアップしている。

ライフスタイルを見直せる環境

今泉さんから全体のお話をうかがったあと、さっそく、介護つき有料老人ホームへ向かい、清掃現場で働く横田健さん（41歳）を訪ねた。

施設では2人の男性が、熱心に床を掃除されていた。山田昌弘さん（64歳）は、環境整備係スタッフ4人のうちの1人で、横田さんとペアを組み、業務を一緒にやりながら、助言やチェックを行っている。2人の仕事ぶりを拝見し、お話をうかがった。



介護つき有料老人ホーム カーサ・ヴェッキオで、清掃業務を担当する横田健さん（左。右はペアを組んで助言などを行う山田さん）



横田さんは、この仕事に就いて5カ月になる。前職は企業で品質管理の仕事をしてきたが、仕事中に体調を崩して退職し9年が経過した。「働きたい」とあせり、2年前に少し働くことができたが、結果的には長続きしなかった。それでも仕事をしたいと主治医に伝え、ハローワークに求人が出ていることを教えてもらったそうである。



病院内を清掃する遠藤勝弘さん

面接を経て入社。入社直後は就業に対し2年のブランクがあったことから、仕事に慣れるために1日6時間の勤務からスタートした。頑張っただけ毎日通勤することができた結果、4カ月目にフルタイム（7・5時間）となった。

「仕事に出るようになって毎日が充実しています。仕事は体を動かすので気持ちがいいです」と話す。給与の使い道をたずねると、「給与は生活費に消えます」とちょっと残念そうだったが、今後の抱負については、「4つの現場（病院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム）のどこに行っても、仕事ができるようにになりたいです」と、キャリアアップを旨とせず、頼もしい答えが返ってきた。

にこやかな表情でのお話から、仕事に慣れてフルタイムになり、自信を得た様子がうかが



がえた。仕事の話が一通り終わると、今泉さんから「今年の新年会の話をしてあげたら」とうながされ、新年会の席で「美しすぎる妻に出会って幸せです」といって大受けした話を、満面に笑みを浮かべながらしてくれた。仕事を得ることで、家庭に対する気持ちの豊かさを取り戻したことを何よりの喜びとされているのが伝わってきた。

続いて、病院に戻り、遠藤勝弘さん（38歳）の仕事ぶりを拝見し、お話をうかがった。遠藤さんは体格が良く、てきぱきと業務をこなし、掃除用具の使い方が板についていた。主に病院内の清掃を担当である。清掃が終了したところを見図らってお話



ピアサポーターの木田千枝さん

をうかがった。病気になる、職を転々として暮らしていたが、昨年フットワーク（社会福祉法人ほっと福祉記念会が運営する郡山市にある就業・生活支援センター）の方から、あさかホスピタルの求人を紹介され応募。4月21日から採用になったそうである。前職はパチンコ店で5年間清掃業務をしていた。退職後、6カ月のブランクがあり、働き続けられるかどうかが一番心配だったそうである。就職してからは、今泉さんをはじめ、スタッフから指導や声かけをしていただいたことが仕事の励みになった。すでに10カ月続いていることが、嬉しいと話してくれた。生活も安定してきたことから、これからの抱負は「彼女を探すこと」だそうである。

病院や老人ホームの玄関に入ったときに感じた「清潔感あふれる施設」となっている理由は、取材に応じてくれたお2人をはじめ、環境整備係の11人と、スタッフ4人のチームワークのよさが生み出していたのだと改めて感じた。



アイ・キャンの地域活動支援センターのピアサポーターとして活躍する上遠野友和さん

午前中の環境整備の取材を終えると、午後はNPO法人アイ・キャンが取り組む、地域活動支援センターと相談支援事業所、多機能型支援事業所（クッキー製造などの生産活動）の複合施設にうかがい、地域活動支援センターでピアスタッフとして働く2人にお話をうかがった。

到着したのは13時過ぎであったが、ホールやミーティング室には20人近い精神障害者の方が来所され、グループワークをしたり、友達同士でおしゃべりをしていた。

ピアサポーターとして活躍

かき野のとも子
上遠野友和さん（39歳）は、2012年4月にアイ・キャンが運営する地域活動支援センターにピアサポーターとして採用され、4年が経とうとしている。この仕事を

始めたきっかけは、県の事業でピアサポーター養成講座を受けたことだった。講座修了後、修了者を半年間ピアサポーターとして雇用するという事業があり、上遠野さんも実際に働いてみた。その結果、ピアサポーターの仕事が続けたいと思ったそう。ちょうどそのときに、アイ・キャンで募集があったので、応募し採用されたという。

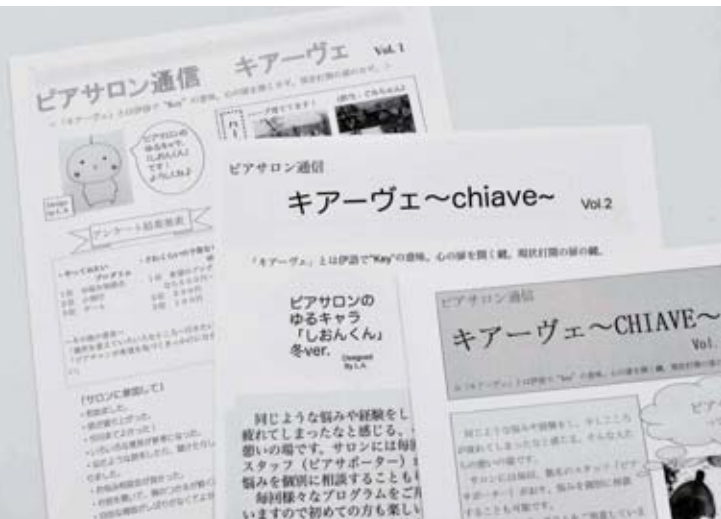
徐々に勤務時間は増え、今は月15日、週平均では3日から4日、1日6時間が勤務時間である。上遠野さんは、鍼灸師の資格があり、精神保健福祉士資格取得のための就学もしている。「鍼灸師の資格とあわせ、両方のよいところを活かし、癒しの仕事ができないかと考えています」と、キャリアアップを重ねながら、将来の展望を話してくれた。

きだ
木田千枝さん（48歳）は、2013年12





忙しく働く木田さん



上遠野さんと木田さんが中心となって制作する機関紙「ピアサロン通信キアーヴェ」

月に採用され、現在は1日7・5時間、週に3日から4日程度勤務されている。

2人の仕事は多岐に渡って、ピアグループの運営を行っている。そのなかでも大きな業務量を占めるのは、機関紙『キアーヴェ』の発行である。紙面のデザインから、原稿募集、イラスト作成など2人が中心となりながら、地域活動支援センターに集う利用者の方々とつくりあげている。

そのほかにグループ運営のプログラムや、ピアカウンセリング、ピアミーティング、個人面談などがある。また、スタッフの補助として、地域交流活動などにも参加する。

ピアサポーターとして働いている意義をお聞きした。「地域活動支援センターに集まる仲間のピアミーティングをやっているのですが、スタッフよりも当事者とわかりあえるのが早いと感じることがあります。そうしたときに働く意義を感じます。詳しく説明しなくても、同じような経験をしているので、つらさだったり、屈辱感だったり、悔しさだったり理解できます。また、お互いに回復途中でもあるので、専門職の人が話を聞くよりもショートカットしてお互いの状況がわかりあえ、『あーそうだね』『あーわかってもらえる』という感覚があります。ただ、ときどき十分に話を聞き取ることができず、当事者の方が気分を悪くされてしまうこともあるので、そういったときには専門職の方に相談して、「フォローアップしてもらおうようにしています」と話

してくれた。やりがいは、ピアカウンセリングをしているときや、ピアサロン、ピアミーティングなど、自分たちでプログラムをつくり、仲間と一緒につくりあげていくなかで、「利用者の方が元気になっていくのを見守れること」。そして、そのかわりのなかで、「自分自身が自信と誇りを持つことができたこと」と、2人は互いに確認しながら話してくださった。

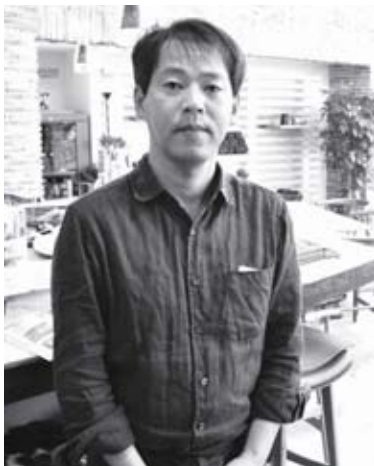
2人がここに来るまではスタッフがやっていた仕事も、最近は徐々にピアだけでやるが増えたという。さまざまな仕事があったので、覚えるのに必死だったが、1年くらい経つと、余裕ができたそうである。「最初は利用者の役に立ちたいという思いで必死でしたが、気がつくと、ここは自分の居場所にもなっていました」と、2人は話す。この地域活動支援センターで確固とした役割を果たされていることが周囲にも認められ、それが「居場所」という表現になっているのだと感じた。

将来の展望は、「ピアサポーターとして、もっともつとやれることがあるはず。例えば家族支援とか、アウトリーチ※などにも取り組みたい」と述べられた。

無理をさせない働き方を提供

最後にアイ・キャンが運営する、郡山の中心地にある就労継続支援A型事業所のレストラン「パール・イルチェントロ」に

※アウトリーチ：ひきこもりなどで外出などができない精神障害者の自宅などへ訪問して話を聞く事業



ホールの接客係として働く金澤秀則さん



レストラン「パール・イルチェントロ」

うかがった。グループ法人が運営する農場でつくった食材を使ったメニューと、菓子工房ドルチェブオーノ、パン工房のブオーノブオーノが提携しながら、地域の方々に美味しい料理を提供しているお店である。14時を過ぎた一番すいている時間帯に訪



問し、スタッフ（就労継続支援A型事業所）として働いている金澤秀則さん（47歳）からお話をうかがった。

金澤さんは、ホールスタッフの制服がとてもよく似合っており、エプロンのつけ方もふくめ、身のこなしもスマートで、とにかく「カッコいい」が第一印象である。

客席で金澤さんのお話をうかがった。

東京の大学を卒業後、東京で就職し13年間勤務したが、病気になるって地元に戻り、アイ・キャンが運営する就労継続支援B型事業や、就労移行支援事業を2年半利用。そして、2014年8月レストラン「パール・イルチェントロ」のオープン時に就職した。勤務時間は朝10時から16時で1日5時間の週4日勤務。業務内容は、ホール係である。

「お客さまに気持ちよく過ごしていただくために、金澤さんには、笑顔心がけ、レスト



レストランの菊地里美店長

ラン全体を見渡し、気を配ることを常に心がけてもらっています。ですので、ホールを安心して任せられるし、なくてはならない人です」と菊地店長。とても高い評価をご本人の前でお話ししてくれた。金澤さんはとても照れくさそうではあったが、うなずきながら、嬉しそうにしていた。「いまの勤務時間が自分にとってベストの状態」であり、休日は、趣味のガーデニングでリフレッシュをしているそうだ。

病院を軸にさまざまな事業所で、いろいろな働き方がある。そして、病院や付随する施設内では多様な業務を切り出すことができる。地域の一員として、地域住民に提供できる新たな社会資源を開発し、またそこで障害者の方が雇用される仕組みづくりをする。こうした一連の取組みは、ほかの地域でも大いに応用できると感じた。医療や福祉の周辺にはまだまだ多くの可能性が秘められていると感じた取材であった。